

子どもの風邪と全身麻酔

川口市立医療センター
麻酔科 梅田 聖子



これから気温が下がってくると風邪が流行する季節ですね。軽い風邪なら時間の短い手術であれば、全身麻酔をかけても問題ないと思われるかもしれませんが、特に子どもの場合、重大な合併症につながる可能性があります。

喉頭がいれん(声帯が閉じたまま固定してしまい、一時的に呼吸ができなくなる状態)や低酸素血症(体の中の酸素が不足した状態)、肺炎などの合併症になり重症化することもあります。

風邪をひいていたら「必ず手術は延期！」ということではありませんが、手術の内容や風邪の程度によっては、手術の延期をお願いすることもあります。

特に咳、痰、声のかすれ、鼻水、発熱、喉が腫れている、呼吸の音がおかしいなどの症状が複数あった場合は注意が必要です。風邪をひいている最中はもちろんのこと、風邪が治った後もしばらく喉は敏感な状態が続きますので、手術まで少なくとも2週間は空けて状態の回復を待つことが望ましいです。

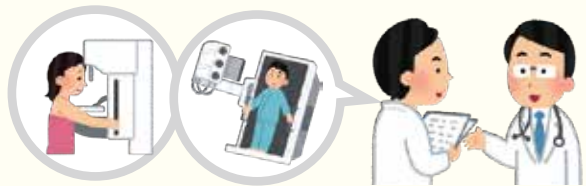
家庭や仕事の都合もあり手術の日を再度調整することは大変とは思いますが、お子さんが安全に手術を受けられるようにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



コロナ禍でも受けよう！「がん検診」

日本人の2人に1人はがんにかかると言われており、誰でもがんにかかる可能性があります。がんは初期段階では症状がないことが特徴です。がん検診を定期的に受診し、早期発見・早期治療することで、がんによる死亡の確率を減少させることができます。しかし、新型コロナウイルス感染症の不安からがん検診を控えると、早い段階で発見できたはずのがんが進行した状態で見つかる可能性が高くなります。がん検診は「大切な命」を守ることに繋がります。マスクの着用や手指の消毒などの感染予防に十分注意し、定期的にがん検診を受けましょう。

10月は「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」です



川口市では令和5年2月末までがん検診を実施しています。1月や2月は医療機関が混雑し、予約が取りづらい状況です。お早目の予約と受診をお勧めします。また、検診の結果、要精密検査・要治療と判定された場合には、必ず医療機関を受診しましょう。



市ホームページ(がん検診)

問 地域保健センター ☎048-256-2022 FAX048-256-2023

イベントスケジュール

21日(金)~23日(日) 10月
川口市市産品フェア2022
場 SKIPシティ →2ページ

30日(日)
荒川ふれあいまつり2022
場 浮間ゴルフ場 →30ページ

5日(土) 11月
第二回川口花火大会
場 荒川運動公園 →7ページ



川口市 広報課 職員による
ちょっとくだけた? 市政情報番組
85.6 MHz City Information
FM Kawaguchiで放送中
放送日: 平日の10分間...10:00、13:50、17:50、20:00

LINE 川口市 公式アカウント
LINE ID @kawaguchi.city

暮らしに役立つ ぜひご利用ください
きらり川口情報メール



ファインダーの先に見えるもの

風景写真家 今浦 友喜さん

スマートフォンやSNSの普及により、誰もが手軽にさまざまな写真を撮ることが可能になった今の時代において、徹底的に一枚のクオリティを追及する職業、写真家。地方での撮影が多い風景写真家の今浦さんは川口生まれ。主要高速道路へのアクセスの良さから、生活と活動の拠点を川口に置いている。

カメラ一台で仕事が完結する、身軽で自由な働き方が気に入っているという。濃紺の夜空の月あかりに淡く咲く桜、新緑の木々の上に広がる青空、遠霧に浮かび上がる森を映す湖。シンプルな構図ながらも、細部にも徹底的にこだわり抜いた写真は見る者を魅了する。

幼いころは家族旅行で絵はがきを買い集めることが趣味だった。社会人になり、自社のスマートフォンやSNSの普及により、誰もが手軽にさまざまな写真を撮ることが可能になった今の時代において、徹底的に一枚のクオリティを追及する職業、写真家。地方での撮影が多い風景写真家の今浦さんは川口生まれ。主要高速道路へのアクセスの良さから、生活と活動の拠点を川口に置いている。

カメラ一台で仕事が完結する、身軽で自由な働き方が気に入っているという。濃紺の夜空の月あかりに淡く咲く桜、新緑の木々の上に広がる青空、遠霧に浮かび上がる森を映す湖。シンプルな構図ながらも、細部にも徹底的にこだわり抜いた写真は見る者を魅了する。

幼いころは家族旅行で絵はがきを買い集めることが趣味だった。社会人になり、自社のスマートフォンやSNSの普及により、誰もが手軽にさまざまな写真を撮ることが可能になった今の時代において、徹底的に一枚のクオリティを追及する職業、写真家。地方での撮影が多い風景写真家の今浦さんは川口生まれ。主要高速道路へのアクセスの良さから、生活と活動の拠点を川口に置いている。



「息も凍るような極寒の雪原で、日の出を迎えた瞬間の太陽の暖かさ。自分が生きていくと感じられる。風景写真家の醍醐味のひとつだと思います」とほほえむ。厳しい自然と向き合い、シャッターを切る刹那に、自身の命を強く感じる高揚感がまた次の絶景へと足を運ぶ原動力となっている。

現在は写真撮影の傍ら、カメラ器材のレビューやフォトツアーの開催などで、多くの人に風景写真の魅力を伝えている。「いつか、デジタル技術やAIの進歩で写真家という職業は無くなるかもしれないけれど、写真は永遠に残ります。伝えたいのは、自分が見たままの心震える風景。今日も彼はファインダーの先にその瞬を追いかける。貴